

き眼をさまして、折柄隧道に入りしともしらで眞暗闇の中に頭出し、いづれが箱根まだ暗きになどつぶやくにをかしくて人の眼さすまでに笑ひぬ。かくて國府津大磯も談笑の中にすぎ品川の朝景色に迎へられ新橋につきしは十八日午前七時二十分黒田先生のお迎へをうけ一同無事歸校したり。

會報

大正二年六月七日 第二十四回技藝科學術談話會を開く其概況は

一、開會の辭

宮川先生

一、パンに就て

技二 武藤保

一、孝道に就て

谷口先生

一、石鹼手製に關する實驗談

技三 渡壁幾子

一、吾等日常食料品の營養量及び價格

技四 荒木ツエ

校長先生を始め諸先生方の御來會あり。谷口先生の御講演は日本の國民性を明確に意識せしむるに足るものにて聽者の満足一方ならざりき。終りに部長より各研究者に對して讚辭ありたり。

會員諸姉に告ぐ

本會々計整理上必要有之候間本年度及之迄に滞りし會費を宮川孝久先生宛に早速御送附相成度候尚贊助員各位にして家事裁縫等技藝科に特有の學科目につきて御卒業後の實地御教授の御經驗或は御研究等御心おさなく奮つて御寄稿相成度願上候。

會費領收廣告 (大正二年三月以降)

- 一金壹圓貳拾錢也 (平松啓)
- 一金壹圓貳拾錢也 (大塚ひで)
- 一金六拾錢也 (大正二年度分) (和田悌)

本年度役員の變動左の如し。

部長 宮川教授  
委員

- 編輯係 尾崎キミ、丸野テル(四年) 吉田キク(三年)
- 庶務係 荒木ツエ(四年) 荒川イト(三年) 小村コスエ(二年) 松本サト(一年) 河野のぶ

大門賀壽(臨教)

會計係 平田愛子(四年) 渡壁幾子(三年) 水民年(二年) 伊藤秀野(一年) 御館たす、田中

いね(臨教)

本年度新入會員

技藝科一部一年

磯貝とく	大高すい	大日方みつ	岡貞子
萩原まつ	渡部すけ	河田まつ子	神戸たづる
竹内りよ	瀧下あい	鶴見ひさる	真鍋つる
真山よし	松本さと	藤井のる	藤森きん
深井幸	阿部きぬ	阿部すて	青野ジウ
柴田一	望月糸	清家國	瀬尾しづる
技藝科二部一年			
伊藤秀野	林たま	原田えい	本間シゲ
大田黒こま	金子きぬ	高巢はる	向井若技
齋藤たまき	佐藤ふじ	三村淺代	

専科

熊谷いし

母校記事

◎我母校に於て最も著しき變化ありしは校舍増築の一事に候。

◎かの東校舎(煉瓦校舎)の裏手にあたりては同色の木造増築せられ主として技藝科生の教室に宛てられ居り候。

◎従來西校舎と呼ばし木造の建築は去る七月下旬に破壊せられ創立以來幾多の生徒を學習せしめし校舎もまのあたり破壊のあとを日撃しては無量の感にうたれざるを得ず候。

◎其ために只今は教室に不足を來し十分間の教室通ひはなか／＼に忙しく候。殊に雨天の日の困難は想像外に候。尙此一部分の寄宿舎たりし所も森川町に移さるゝ事となり候。

◎雞頭の赤う色づきダリヤ丈のびて氣澄み渡る天地に秋の七彩の織り出されんとする折から贊助員の方々並に會員諸姉如何御過し遊ばされ候や。

在校會員諸君は長さ休暇中に養はれし精力もて本科の爲にます／＼御奮勵遊ばされん事を學期の初に切望致し候。實は本誌の發行は前學期の豫定に候處原稿の都合上日一日と延引致し本學期に至り候段編輯員の無能故とまことに恐縮致し居り候次第悪しからず御許容下され度候。